金井弘夫 2003. 福島県におけるキツネノマゴの不連続分布 . 植物研究雑誌 **78**(3): 178–181.
環境庁 1997. 都道府県別メッシュマップ . Vol. 1–53.
建設省国土地理院（監）1990. 地図利用マニュアル . 日本地図センター，東京 .
建設省国土地理院（監）1994. 数値地図ユーザーガイド改訂版 . 日本地図センター，東京 .
日本地図センター（監）2005. 五訂版地形図の手引き . 日本地図センター，東京 .
日本地図センター 2006. 改訂版楽しい地図入門 . 日本地図センター，東京 .
田代 博 , 星野 朗（編）2000. 地図のことがわかる事典 . 日本実業出版社，東京 .

新　刊

□塚谷裕一：**変わる植物学広がる植物学**．B6. 226 pp．2006．￥2,400+ 税．東京大学出版会. ISBN 978-4-13-063327-7 C1045.

副題はモデル植物の誕生．シロイヌナズナはゲノムサイズが小さいこと，自家和合性が高こと，植物体が小型で栽培が容易で，実験系で扱いやすいことなどの性質のため，高等植物の遺伝的解析のためのモデル植物として近年集中的に研究され，分子生物学の主流の一つとしての地位を占めるようになった．日本におけるその中心的立場にいる著者が，最近の成果と将来の展望を，読みやすい文章で解説している．私にはその内容をこなして紹介する能力はもはやないが，分野違いの人でも，とにかく一通りの常識を身につけるために役立つことは疑いない．矢のように進む分野なので，5年も昔の本を今頃紹介しても手遅れだろう．

DNA タンパクの配列の異同が、ただちに「種」の違いとは結びつかず，そこから形質発現の結果までには，無数と言ってよい代謝径路の組み合わせがあって，同じと見える形質でも，異なる起源をもつことがあるらしい．その径路の複雑さの解析はもはや一々手作業で行えるものではなく，コンピュータを介した自動分析の結果を信ずるほかはないと言う．信じるか信じないかは，プログラムのアルゴリズムが正しいか否かに依存しているとのことだ．そうすると「とにかくこういう結果が出たのだから，そうなのだ」と，始点と終点を結びつけることになる．とにかく当分の間は，研究の目標はそこに集中するらしい．「正しい」アルゴリズムのプログラムは幾通りも作れるだろうから，それらの結果が同じ結論を示してくれるとよいのだが....

かつて染色体が遺伝学の主題となった頃，「染色体を研究すれば種というものの謎は解ける」と，細胞学や遺伝学の人たちが盛んに研究した．ところが研究の目標が次第に染色体を構成する DNA に移って行き，染色体と種の関係の研究は置き忘れられて，分類学の人たちがかかわることになった．そのとき困ったのは，先行研究者が行った結果の voucher が残されておらず，結局何を調べたのかわからなかったことだ... と，原　寛先生が述懐しておられた．私などは，同定チップというものができて，葉の切れ端をなすりつければ，直ちにその「種」を教えてくれる道具があったらよいのに，と思う．

柴谷篤弘氏が生物学の革命 (1960) で使った「枚挙の精神」「切手収集」という言葉は，今もなにかマイナスイメージとして受け継がれているようだ．当時「柴谷氏は切手集めをしたことがないのだろう？」と思ったものだ．切手を集めるためには，「切手」と「切手でないもの」を判別する必要がある．収入印紙は切手ではない．あれを手紙に貼って郵便局に持って行っても，拒否されるだろう．NPO の協力要請についてくるシールも，切手ではない．ブータンの金ピカの円形切手は，むかしビスケットやチョコレートのセロファン包みの両端に貼ってあったシールに似ているが，前者は切手で後者は違う．何が違うのかよくわからないが，違うのだ．その円形切手を封筒に貼って東京で投函しても，受け付けてもらえないが，同じものをブータンの入り口のプンツォリンの郵便局へ持っていったら，受け付けてくれるはずだ．しかしその手紙が宛て先に届く確率は小さいだろう．届いたとしても，切手は「はがれ落ちて」いる可能性が高い．切手の役目をしそうもないのに，それでもこれは切手である．ネパールの山奥で航空便を出そうと，郵便局（と言ってもただの農家）へ行ったら小額切手ばかりで，封筒全面に貼っても間に合わない．困っていたら「裏側に貼ればよい」とアドバイスされた．日本で封筒の裏面に切手を貼ったら，切手として認めてくれるのだろうか？官製葉書の左肩に描いてある雀の絵を切り

取って封筒に貼っても，受け付けて貰えないだろう．だからあれは切手ではない．

とにかく何らかの判断基準に基づいて「枚挙」するのが「切手収集」である．切手の研究家は，自分が集めたものであろうと他人が集めた物であろうと，このような収集品の中から研究対象を選ぶことができるのだ．そしてたとえば，どのようなプロセスでDNAが形質形成に貢献しているのかを「枚挙」しようとしている... と考えられないだろうか？植物分類学や形態学は，そういう基になる「収集品」の「枚挙」の結果として，シロイヌナズナという名前の植物を提供しているのだと思う．そして分子生物学的手法による「枚挙」の結果として，掴み所がないのに厳存している「種」というものの実体が，明らかにされることを期待している．

最後に著者は，槍ヶ岳のテッペンに，先を争って石を一つ積み上げるような努力の大変さを語っている．これを読むと，河童橋のたもとに石を一つ埋め込むような仕事が，とても勇気の要るものだと思わされる．（金井弘夫）

□堀　大才・岩谷美苗：**図解樹木診断と手当て**．A5．171 pp．2002．￥1,429+税．農山漁村文化協会．ISBN 978-4-540-01258-7 C2076.

「木を見る　木を読む　木と語る」の副題がある．私が手にしたのは2010年の第19刷で，目次に「聴診器では聞けない水音」というコラムの見出しがあったためである．たまたまこの件についての意見を「野草」誌に投稿したばかりだったのだ．目次は6頁にわたり，1．樹形からわかる木のメッセージ，2．木の育つしくみ－誤解をしていませんか，3．木の診断と管理法－誤解だらけの管理方法，の三部より成る．本書は樹木の手入れの仕方を，植物の生理的現象を踏まえて解説している．とくに根については，ふだん目にしない部分なので，教えられるところが多い．日常目にする樹木の手入れ法や保護策に，あちこちで異を唱えている．全頁ともマンガ的なイラストで占められ，文章はごく少なく，あまりむつかしいリクツはないので，読みやすい．野山ばかりでなく街頭でも，いろんな形の樹木に出会う．自然にそうなったものもあるし，人手が加わった結果のものも多い．とくにいわゆる「里山」では，そういう形があたかも「自然」であるかのように受け取られることが少なくない．自然観察の目を肥やすのに役立つだろう．（金井弘夫）

□七島花の会神津島：**神津島花図鑑**．12.5×20.5cm．407 pp．2011．￥2,857+税．日本出版ネットワーク．ISBN 978-4-905240-01-3 C0645.

植物は開花・結実期順に並べられていて，末尾にシダと木の葉がまとめてある．サイズの割に重量があるのは，全頁たくさんのカラー写真で埋められているためである．花を主体にしたアップばかりでなく，接写や花部の分解写真が豊富に示されていて，ラン科やイネ科などは詳細をきわめている．タヌキノショクダイの花の内部構造や，その送粉のための役割が説明されている．植物名は和名のみで，説明の必要上，たまに学名が記されることがある．末尾に索引を兼ねて植物名が50音順に，花暦とともに示され，2003年以降に確認された植物686種類，2003年以降未確認の112種類のリストがある．木の葉の章には，和名の下に端点のついた線が一々ついているが，単なる仕切りらしい．この線はスケールバーとして使えるだろう．名前調べの図鑑は出尽くした感があるが，今後はこういう行き方がいろいろ出てくることだろう．ただ，写真というものは機械の記録なので，図という人手による記録も加わってほしいと思う．

著者の「七島花の会」がどういう会かわからない．400頁に会則が載っていて，「... 植物の理解を深めるために，伊豆諸島の交流を図る」という目的だと知れるが，連絡先や役員名はない．著者は内容に責任を持つのだから，明確に表示すべきである．（金井弘夫）

□菱山忠三郎：**里山・山地の身近な山野草**．18×23.5cm．367 pp．2010．￥1,700+税．主婦の友社．ISBN 978-4-07-274128-3 C0076.

さきに「身近な」野草・雑草および樹木の二冊を紹介したが，まだ「身近な」ものが落ちていたようで，今回は里山や低山歩きで出会う植物を集めてある．こうして並べてみると，学生時代にそこらで普通に見かけた植物がたくさん出てきて，あの頃当たり前だった植物がなくなったことを，改めて感じる．花や果実のアップや芽生えが多数示されているので，実物を調べ直すことが難しくなった植物のことを思い出すのに都合がよい．（金井弘夫）